

	内 容	留 意 事 項
準備工	作業打ち合わせ(KY活動) 作業内容、人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 《規制完了》 規制完了を待機中の作業車両に連絡すると共に、 規制進入位置も伝える。 《作業車両配置》 作業車両の入れ替え又、作業に支障とならない場所に 車両を配置する。 《作業準備》 クレーン車から必要な工具、機械、資材を人力又はクレーン を使用し、荷台から降ろす。	安全ミーティング日報による 指示書の内容確認 マニフェストの準備 入り口は線形の良い場所に設置し、必ず誘導員を配置する。 クレーン使用時はアウトリガーを確実に張り出し使用する。
カッター工	《補修ラインのすみだし》 施工箇所をマーキングし、カッター工の準備を行う。 舗装カッターで、ラインにそって規定の深さまで舗装を切断する。	センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 機械使用後は、水抜きを行い、歯止めをかって路肩に置く。 カッターの深さを決定する時、橋梁上などは舗装厚が薄い所 が有るので床版を傷つけない様に注意し深さ決定を行う。
はつり工	飛散防止ネットを設置した後、カッターライン内の舗装をブレーカー、ピック 等を使用して、はつり取る。 フロアーを使用し清掃する。 深さ検測を行う。 廃材は重機等を使用してトラックに積み込み、所定の処分場に運搬し、 処理を依頼する。	車線側には、必ず飛散防止ネットを設置する。 ブレーカーに飛散防止ガード・ホースの外れ止めを取り付ける。 ネット設置～撤去の際は、風等におおられ転倒する危険が あるため3～4人で養生ロープ、ウエイト等を設置する。 作業状況の都合上、養生ロープ等を設置できない場合は、 人による保持を行う。 マニフェストの提出 作業に合った保護具を使用する。 (ブレーカー使用時は防振手袋・保護メガネの着用) 重機作業半径内は作業員立入禁止
乳剤塗布	はつり面を均一に乳剤散布機で乳剤塗布を行う。	一般車への飛散防止を確実にを行う。 保護具の着用。
舗 設 工	トラックにて運んで来たアスファルトをレーキ等を使用し均一に、敷きなら 敷き均し厚さは試験施工で定めた厚さとする。	《合材温度の確認》 工場発送時の温度から-20℃以上の物は、使用しない。 トラックの誘導時は、十分注意をする。 骨材の飛散と火傷には十分注意する。 革手袋の着用
転 圧	プレートコンパクター、振動ローラーを使用し十分踏み固める。 試験施工に基づき転圧を行う	センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 ローラーに挟まれないように周囲の安全確認を行う。 機械使用後は、水抜きを行い、歯止めをかって路肩に置く。
養 生	転圧終了後、舗装温度が下がるまで、養生を行う。 この時間内に、出来型検測を行う。	舗装の規制開放温度は、40℃以下
後片付け	使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうき などで現場周辺を清掃する。 終礼の実施	使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 研りカス、合材カスが無い様に、現場周辺を綺麗に清掃する。 安全ミーティング日報による

注意事項

作業に合った保護具の使用を行う。
 有資格者による、機械作業を行う。
 一般車への飛散防止は確実にを行う。
 振動ローラーの取り扱いには、特に注意する。
 廃材処理にはマニフェストを必ず使用する。
 試験施工で定められた方法を遵守する
 移動前に積載物の落下防止対策を実施し、複数人で確認する
 車両を後退させる際は誘導員と打合せ実施後移動する。